

受難節第5主日礼拝説教要旨(3月22日)

『賛美の献げ物』 ヘブライ人への手紙 13:12-15 早川 真牧師

今朝の個所には、私たちが神様に賛美の献げ物を絶えず献げることが出来るのは「イエス・キリストを通して」であるからだと言われています。キリストは私たちのために安住の地である天の父のもとを離れ、地上に来てくださいました。そして宿営の外で、命を捨てて下さいました。しかしその後、復活し天に挙げられました。

私たちが人生の苦難の中でイエス・キリストのもとに行くなら、私たちもまた復活し、天における安住の地が約束されています。

今年度、私たちには様々なことがあったことでしょう。思いがけない苦しみが襲ってきたこともあったことと思います。私たちが地上に生きる限り、そのような苦難はつきものです。その意味においては、私たちは地上においては安住の地はないと言えます。しかし私たちの安住の地は、そのような中であってキリストが共におられるということです。キリストはご自分の豊かさによって私たちの日々の歩みに必要なものを全て与えることができになると聖書は語っています。キリストと共に歩むなら、天においても地においても祝福は私たちを追いかけてくると約束されています。神はイスラエルの民が荒野の40年間、天から降るパンであるマナによって養われたように、天から下ってこられた命のパンであるイエス・キリストによって、地上であって私たちの必要を満たし、必ず私たちに安住することのできる天の都を来たらせてくださる、聖書はそう約束しています。そのことを成し遂げるために十字架の上で苦しみを受けてくださった主イエス・キリストへの賛美を献げつつ、共に新しい年度へと向かってまいりたいと思います。